

令和4年12月三木市教育委員会（定例会）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和4年12月16日（金）午後2時00分
- (2) 閉 会 令和4年12月16日（金）午後4時40分

2 場 所 三木市役所 5階 大会議室

3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について
- 第 2 会議録の承認について
- 第 3 会議の公開・非公開の決定について
- 第 4 協議事項11 令和5年度の予算編成に係る教育予算について
- 第 5 報告事項 各課（室）の所管事項について
- 第 6 その他
- 第 7 次回定例会の開催日程について

4 出席者

教 育 長	大 北 由 美
委 員	石 井 ひろ美
委 員	中 嶋 直 裕
委 員	梶 正 義
委 員	稲 見 秀 行

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

教 育 総 務 部 長	本 岡 忠 明
教 育 振 興 部 長	横 田 浩 一
教 育 総 務 課 長	森 田 眞 規
教 育 施 設 課 長	荒 田 知 宏
生 涯 学 習 課 長	河 端 康
図 書 館 長	伊 藤 真 紀
文 化 ・ ス ポ ー ツ 課 長	金 井 善 純

学校教育課長	田中	智美
教育センター所長	橋本	泰一
学校再編室長	鍋島	健一
教育・保育課長	仲谷	淳
教育総務課係長	三觜	牧恵
教育総務課主事	大野	剛史

7 傍聴者 なし

開 会

教育長が、令和4年12月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、中嶋委員と梶委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、令和4年11月定例会（14日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

日程第3 会議の公開・非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、協議事項11「令和5年度の予算編成に係る教育予算について」は、3月市議会に提案を予定している案件であり、公にすることにより不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあることから、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、非公開で審議することについて同意された。

日程第5 報告事項 各課（室）の所管事項について

(1) 教育施設課報告事項

○荒田教育施設課長が次のように報告した。

旧中吉川小学校工作物等撤去工事は、進捗率が10%から30%となり、現在はグラウンドの工作物を撤去している。工期については、地権者との調整が長引いたため、12月23日から令和5年3月3日に延長する。

緑が丘小学校土砂災害対策工事は、着工に向けて進めており、令和5年1月から工事に取り掛かる。

物価高騰分の学校給食費徴収について、現在は児童生徒分の給食費については無償化で進めているが、教職員については徴収している状況である。物価高騰に伴い食材費が増えているため、教職員から学校給食費を追加で徴収する。児童生徒は国の地方創生臨時交付金があるため徴収は行わない。教職員の徴収金額について、小学校では通常月額3,940円から物価上昇割合10%、1食あたり差額23円、年間上昇分が4,255円となる。この年間上昇分を3月の給食費3,940円に追加し、合計8,195円を徴収する。中学校では通常月額4,100円から物価上昇割合10%、1食あたり差額26円、年間上昇分が4,420円となる。この年間上昇分を3月の給食費4,100円に追加し、合計8,520円を徴収する。今後の予定は、令和5年3月中旬に物価高騰分を精査し、通知書を送付し、下旬に物価高騰分を追加した給食材料費を徴収する。なお、この追加徴収については、12月1日の校園長会で説明を行っている。

(2) 生涯学習課報告事項

○河端生涯学習課長が次のように報告した。

あったかいいいな大会を12月10日に吉川町公民館で開催し、参加者は150人であった。アカペラグループ宝船の公演もあった。

自由が丘連合自主防災訓練を1月15日に自由が丘中央公園で実施する。例年多くの住民が参加しており、今年度も600人を予定している。

令和4年度三木市二十歳の祝典を1月8日に文化会館大ホールで実施する。対象者は694人である。成人となる年齢が20歳から18歳に変更されたが、20歳を対象に実施するため、名称を「成人式」から「二十歳の祝典」に変更した。3年ぶりの1部開催で実

施する。

子ども食堂については、12月18日から毎月第3日曜日にみなぎ台第5集会所で、ボランティアサークル「おだんごぱん」による吉川地域の子ども食堂「おだんごぱんキッチン」が開設されている。また、令和5年1月20日から毎月第1と第3金曜日の夕方に別所町公民館で「ボランティアぬくもりの手」による子ども食堂「べっしょなかよし食堂」が開設される予定である。

(3) 図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

クリスマスおはなし会&工作を12月3日に中央図書館で、12月10日に青山図書館で開催した。参加者は、中央図書館が31人、青山図書館が19人であった。

今後の予定事業については、すすすくのクリスマス会を12月19日に吉川図書館で開催する。

三木染形紙デザインの読書手帳配布を1月4日から市内各図書館で実施する。三木市指定文化財に指定した染形紙を市民の方に知っていただくために、図書館では平成28年度から染形紙をデザインした読書手帳を配布しており、市民からは好評である。

「新春企画・おたのしみ袋2023」を1月7日に青山図書館で実施する。「笑う門には福来る」、「当たる占いの本」、「恐竜博士になろう」などテーマごとに選んだ本を詰め合わせた「おたのしみ袋」を貸し出す。今回は兵庫県立三木北高等学校との連携事業として、高校生が選んだ本のおたのしみ袋も貸し出す。

(4) 文化・スポーツ課報告事項

○金井文化・スポーツ課長が次のように報告した。

「郷土の書家 上田桑鳩展」(後期)を11月5日から11月27日まで堀光美術館で実施し、来場者数は883人であった。この特別企画展は、前期・後期で約2か月間開催し、前期の来場者数である970人を含め、特別企画展全体の来場者数は合計1853人であった。

吉川の歴史に関する特別講演会を11月26日に、吉川町の文化財を巡る歴史ウォークを11月27日に開催した。

今後の予定は、「第47回 グループしぶがき展」を12月9日

から12月25日まで堀光美術館で開催する。

「木版と洋画を楽しむ二人展」を1月7日から1月29日まで、堀光美術館で開催する。

12月から三木城の二の丸跡発掘調査を行っており、12月24日に現地で発掘調査の現状の説明会を開催する。

(5) 学校教育課報告事項

○田中学校教育課長が次のように報告した。

第9回定例校園長会を12月1日に実施した。生徒指導については、保護者からの相談についての報告連絡相談の徹底や来年度の引継ぎを正確に行うよう指導した。

冬季休業を迎えるに当たっての生徒指導については、特に2点を重点的に指導するように依頼した。1点目に、不登校の児童生徒にとって、学期初めは再登校の新たな一歩になり得るので、冬季休業中も可能な範囲で家庭訪問とアプローチを大切にすること、2点目に、ネット依存にならないよう、子どもたちに指導するとともに、インターネットの使用について家庭でも話し合うよう保護者への啓発を依頼した。

教職員の服務規律の確保については、冬休みを迎えるにあたり、交通事故の防止、飲酒運転の禁止、個人情報等の取扱注意を中心に教職員への指導を徹底するように依頼した。

12月6日に実施した学力向上対策委員会と12月14日に実施した未来を創る学力育成プロジェクト会議の内容は、1月定例会で報告する。

臨時校園長会を12月13日に実施した。緑が丘中学校で発生した転落事故の控訴の提起に関する議案が否決に至った経緯を説明し、今後の対応として、危機管理ハンドブックを基に各校園で学校安全管理体制の再確認及び充実強化に努めるよう通知した。

緑が丘中学校の転落事故の控訴の断念について説明する。控訴の提起に関する議案が12月議会で否決されたことを受け、市は控訴を断念することとなった。また、相手方も判決文を受け取ってから2週間の控訴期限までに控訴しなかったため、第1審の判決が確定した。現在、賠償金等支払いの手続きを進めている。支払いが完了すると訴訟は終結となる。

教育委員会11月定例会で特別支援免許所有者数について質問が

あったため報告する。令和4年5月1日現在、特別支援免許所有者は、全体の13.3%にあたる52人である。内訳は、小学校が13.8%で33人、中学校が6.8%で9人、特別支援学校が50%で10人である。教員数には管理職、養護教諭、栄養教諭は含んでいない。

(6) 教育センター報告事項

○橋本教育センター所長が次のように報告した。

市民パソコン講座を11月25日から18日まで実施し、参加者は4人であった。期間中、教育センターで生徒がトライやる・ウィーク活動をしており、当該生徒と一緒にパソコン教室を行った。

適応教室は、2学期の末で終了し、冬季休業日を設けている。2学期の通級状況を26日と27日に各学校に報告し、連携を図る。

CGアートコンテストの作品募集を12月28日で締切り、1月12日に審査委員会を実施する。

青少年センターの事業について説明する。ネット見守り隊は、女子中学生が顔出し写真をTwitterに掲載し、教員への不平を記載していた。個人情報が入っている内容であったため、学校に報告し、指導を行った。

年末年始、二十歳の祝典及び戎神社例祭の特別補導を実施する。

(7) 学校再編室報告事項

○鍋島学校再編室長が次のように報告した。

先進校視察については、令和4年度は管理職を含めて合計29人の教職員が施設一体型小中一貫校または小中分離型の学校の視察に参加している。

コミュニティ・スクール研修会を11月21日に教育センターで、学校の教職員を対象に、文部科学省CSマイスターの小西哲也氏を招聘し、「なぜ、今コミュニティ・スクールなのか」をテーマに、開催した。

学校運営協議会（委員候補者）研修会を11月25日に委員候補者を対象に教育センターで開催し、南丹市立園部小学校の榊貢氏から実践の紹介やワークショップをしていただいた。

第2回ワーキンググループを12月8日に教育センターで実施した。実際に学校現場の教職員の意見を取り入れるため、6中学校区

から1人ずつ代表が集まり、意見交換を行っている。

第5回小中一貫教育推進協議会を12月14日に実施し、意見書骨子案について協議し、以下の4つの内容となった。

1点目に、「子どもにつけたい力は」なにかを協議し、表にまとめている。これからの未来を生きていく子どもたちには、「主体性、思考力」、「情報を活用する力」、「優しさや思いやり」等の力をつけてほしいため協議会としてのメッセージを発信することとなった。「コミュニティ・スクールをはじめ学校教育だけではなく、様々な場面でこの力をつけていくようにしていただきたい。」と意見をいただいたため、「すべての子どもたちに、学校教育、家庭教育、社会教育をはじめ、子どもたちを取り巻くあらゆる環境や機会を通じて育んでいくことを強く願う。」と表現している。加えて、小中一貫教育は「子どもにつけたい力」をより確実に伸ばすための非常に効果的な方法であると示している。

2点目に、施設一体型小中一貫校を導入していくべきかどうかについて提言をいただいた。今は離れている小中学校間で小中一貫教育を進めていくことが大事であり、より高い教育効果が得られるのが施設一体型であるという話の中で、施設一体型に移行するのが望ましいという意見でまとまった。理由としては、ア「同じ空間で9学年が集い、学ぶことで得られる効果」、イ「小中の教員が常に協働できることで得られる効果」があるからである。

3点目に、施設整備着手の方向性については、市の大きな施策であるため、進める際には、必要な校数をモデル校として設置し、効果や課題を検証した上で取り組む必要があり、モデル校を設置するのであれば吉川が良いとまとまった。そこで、吉川をモデル校とする理由と付帯意見を挙げた。理由としては、①通学の課題があること、②過去の総合教育会議において、「小規模になったとしても吉川に学校を残す」としたこと、③吉川の4つの小学校を統合しても、まだ多くの学年で単学級であることである。そのため、小学校と中学校を一緒にし、多くのふれあいが生まれる施設一体型の環境に可能な限り早く移行するべきであることが示されている。付帯意見としては、①子どもの人口が減っているため、可能な限り早く着手すること、②「特認校制度」等の施策を検討する必要があること、③教育施設だけではなく、公共施設の複合化などを検討し、地域とのつながりを大事に考え、まちづくりとの関連性も考慮する必要がある

ることである。

4点目に、学校施設の将来像について、以前には、5校のイメージ図が示されていたが、社会の劇的な変化が予想される中で、設置すべき学校数を固定して考えるのではなく、変化に対して柔軟に対応していく必要があると考えるという意見でまとまった。附帯意見としては、①子どもの人口の推移をみて人口推計を行い、各地域における学校の在り方を検討すること、②コミュニティ・スクールを核とした地域との関わりを大切にする事、③ICT環境をはじめ、社会の大きな変化が予想されており、「学校」のもつ根本的な役割の変化にしっかりと対応していくこと、④小規模化が進んでいる学校への対応は喫緊の課題であり、慎重かつ早急に対応を検討することである。

今後の予定について、1月に第6回協議会を行い、2月に教育長が協議会の委員長から意見書を受領する。

(石井委員) これだけのことを網羅するに当たって、様々な協議をされたことがよく分かる骨子案になっている。つけたい力について、私たちが何度も協議してきた内容が全て盛り込まれている。今後、同じ方向性でどれだけ様々な方に共有できるかが大切である。

(8) 教育・保育課報告事項

○仲谷教育・保育課長が次のように報告した。

令和4年度アフタースクール冬休み入所児童募集を、11月14日から30日まで行い、申請数が12人であった。

特定教育・保育施設第三者評価を記載の日程で実施した。12月16日の清心認定こども園は、新型コロナウイルス感染症の関係で中止となった。1月以降に日程調整を行う。

今後の予定については、第三者評価、実地監査、次世代研修、キャリアアップ研修、保育協会理事会を記載の日程で実施する。

9月以降、静岡県でバスの置き去り事件や不適切な保育が行われた事案等が発生したため、厚生労働省と内閣府から虐待等に関する対応についての留意事項が示され、12月8日に実施した三木市保育協会理事会で周知した。同日に県からも通知があり、公立2園、民間14園に対して手引書とチェックリストについて、周知した。幼稚園は、文科省より通知予定であるため、別途行う。留意事項の

主な内容は、子どもの安全安心が最も配慮されるべき保育所において、虐待はあってはならず、発生防止のためにも不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引書とチェックリストを活用し、今一度保育の在り方を点検することである。事案があれば隠さずすぐ報告することが大事であることが記載されており、各園に周知する際に、その点に注意していただくことを特に注記して通知した。

教育保育の施設評価について、保護者及び職員を対象にアンケートを実施している。アンケートはQRコードを用いて行うため、簡単に回答でき、市に回答が直接届くため、保護者及び職員の率直な意見が記入されていると思う。アンケートの回答率は70%で、虐待等に関する記入はない。

今後は、手引書とチェックリストを活用して、各園所で点検をし、保護者が相談ができるような体制を整える。

バスでの置き去り事故について、国の方針で、未就学児の送迎バスの置き去りを防止をする安全対策整備が義務化される。今後、国の補助を活用し、整備を進める。現在、三木市では、連携協定を結んでいる企業から、バスでの置き去りを防止するためQRコードを読み取りチェックする実証実験を12月13日から約2か月いずみ認定こども園及びあけぼの認定こども園で行っている。車内3か所のQRコードを読み取り送信すると、園の事務所に「車内確認終了」との通知が届く。将来的には保護者の携帯にも通知できるシステムである。

(梶委員) 置き去り防止にテクノロジーを利用することについては、子どもを預かる職員として、当たり前なのが当たり前になっていないといういい加減な状態でテクノロジーに頼るのは納得がいかない。子どもがいなか、忘れ物がないか等をまず確認する。そして、それをカバーするのがシステムであって、子どもを守るという一番大切なことが最優先となるよう各園に指導していただきたい。

(仲谷教育・保育課長) 実際にブザーやQRコードを使うと機械に頼ってしまい、何を目的としているか分からなくなる。まず、自分の目で目視確認をし、補助機能としてブザーやQRコードを使用するという認識で行動しないといけないと園長とも話をした。

日程第6 その他

(中嶋委員) 高校の学校再編で新しい情報はないか。また、今回の再編計画で、保留となっている地域がある理由について教えていただきたい。

(田中学校教育課長) 高校の学校再編については、高校再編に向けた検討委員会が終了し、県等の会議に出席することも全くなかったため、新しい情報はない。

他地域の高校再編については、どのような経緯で保留になったのかは分からない。

(中嶋委員) 中播磨地域だったと思うが、対象が広域ということもあり、進める中で課題が出てきたことが関係し、解決に向けての保留となったと思う。

三木市でも再編が進み、通学において距離的、時間的及び体力的にも影響が出てくる。特に市を跨いでバスで通学する場合、1区間だけでも凄く金額が上がると聞いている。経済的な負担については、教育の公平性からも考え、対応を進めていただきたい。

(田中学校教育課長) 神戸市では、学区再編により5学区になってから、これまでより通学に費用を要していると市民から意見があり、通学補助等を検討して実施している。三木市も令和7年度の統合を踏まえ、どのくらい通学に費用を要している家庭が多いのか把握ができないかぎり踏み切るのは難しい。通学時間に関しては、学校の始業に合うように時間を調整するなど、神姫バス等との調整が必要と考える。

既に他市の学校へ通学している子どもが多くいるため、公平性も考慮し、進めていきたい。

日程第7 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催について諮り、令和5年1月20日午後2時から開催することを決定した。

(非公開)

日程第4 協議事項11 令和5年度の予算編成に係る教育予算について

協議事項11は、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、非公開で審議したため、同規則第31条の規定により、内容については記載しない。

閉 会

教育長が、令和4年12月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。

【令和4年12月三木市教育委員会定例会会議録】

教育長

署名委員

署名委員

記録者